

研究課題	2.2 機動観測項目における火山ガス成分観測の実効性調査
研究期間	平成30年度～平成31年度（2年計画第2年度）
実施官署	福岡管区気象台、大分地方気象台、宮崎地方気象台、鹿児島地方気象台
担当者	（福岡管区気象台）○川村安、足立幸夫、井上秀穂、池田啓二、菅原道智、古田仁康、塚本果織、満永大輔、末次秀規、千馬竜太郎、工藤直樹、本井雅人、松本享、後藤進、菅井明、森博一、久利美和 （大分地方気象台）平松秀行、川上政樹、豊川将一 （宮崎地方気象台）植村英明、有村雄一 （鹿児島地方気象台）池亀孝光、手操佳子、岸本博志
担当研究官	[火山研究部] 高木朗充、堀口桂香、谷口無我、森健彦
目的	本研究は、火山活動評価及び噴火活動予測の精度を高めるための有用な要件の一つとなる、火山ガス成分観測に関して、福岡管区気象台火山監視・警報センター及び管内各地方官署にて実施する機動観測によって得られた観測データが火山活動評価の高度化に資することができるか検証する。
研究の概要	1) 機動観測で実施できる火山ガス成分観測の習熟 九重山及び霧島硫黄山における火山ガス成分観測を概ね2か月に1回実施する。化学分析の一種である検知管分析法を使用して現地で迅速に分析できる機動観測手法について、担当研究官からの火山ガスの採取・分析法の技術的な助言を受け、火山ガス成分観測の習熟を目指す。 2) 観測された火山ガス成分データの有用性の確認と評価手法の確立 1) で観測された火山ガスの採取作業、分析結果の品質及びデータの有用性について、担当研究官からの指導を受け、火山ガス成分データの評価技術法を検討する。 3) 火山ガス成分データと従来からのデータを融合した火山活動評価手法の確立 2) で評価した火山ガス成分データと、従来からの観測データを融合した火山活動評価技術を検討する。
平成31年度実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・九重山及び霧島硫黄山における火山ガス成分観測を実施する。ただし、火山活動の活発化に伴う安全上の問題から、他の火山もしくは対象噴気地帯を変更する可能性もある。 ・観測された火山ガス成分データに関する検討を行う。 ・火山ガス成分データと従来からのデータを融合した活動評価検討会を開催する。 ・共同研究成果とりまとめに向けた検討会を実施し、研究成果最終報告を作成する。